

# The Way of 世界のサポーターおれこれ DUTCH

オランダ・サポーター物語

文●DASIA

Text by DASIA

写真●アプロ

Photo by APRO

翻訳●山中麻理子

Translation by Rika Yamanaka

## あのヨハン・クライフもお気に入り 目的はサポーターを元気つけること

1988年以來、オランダ代表チーム(オランダ語の愛称は、オレンジ色を意味する“オランダジェ”)の応援と言えば、やはり brass band(ブラスバンド)だ。スタジアムでも街中でも、お祭りの雰囲気を感じ出す彼らの演奏が実に特徴的であることは有名である。このブラスバンドは、オランダ語でラッパを鳴らす人という単語に由来して、“テレトーターズ”と呼ばれており、98年のW杯でひときり目だった存在となった。マル

“The Teletoeters”

## 傷ついたパイオニアたち

～名物ブラスバンドの葛藤～

すっかり国際大会におけるオランダ代表名物サポーターとなったブラスバンド隊。88年以來、テレトーターズと呼ばれる彼らは、チームとサポーターを元気つけてきた。しかしファン・バステン監督の意向で、今回のドイツ大会で彼らは舞台を失った。

セイウで行われた準々決勝で、テレトーターズは楽器を手にスタジアムに駆けつけ、サポーターたちもバンドの演奏に合わせて大声で合唱した。

しかし、今年のドイツ大会で彼らの姿を見ることができそうにない。なぜなら、ファン・バステン監督がサッカーに集中したいという理由で、バンドの演奏を禁止したからだ。ファン・バステンは、バンドの演奏がサポーターの士気を上げ、それが選手のパフォーマンスを向上させていると考えていない。彼らは、選手の

代表を務めるハリ・ヴァーダングは、その考え方を到底理解できないと話す。

「私たちはただ、なるべく多くのサポーターを盛り上げて12人目の選手としてピッチの選手たちにエールを送りたいだけ。選手たちも、この決定には失望したと言っています。サポーター協会は、バンドの代わりに現代風の電子音楽を打ち込むことにしたそうですが、昔ながらの楽器の方がずっと良いです。残念ながら、今回はW杯をテレビの前で観戦することになりそうです。」

テレトーターズは1983年に同好会として発足。営業マンや郵便配達など、職種は違っても音楽への情熱という点で団結した人々が作った小さなグループだった。

「はじめは単に趣味の領域だったのが、練習を重ねるうちにどんどんレベルアップしてきました。ロック、ポップスやソウルから、アイニタの銅鑼行進曲まで多岐にわたるジャンルをカバーしているんです。」

1986年、PSVのサポーターが多数を占めていたテレトーターズは、まずヨーロッパのトッ

クラスチームが対戦する大会で、PSVの応援を始めた。それが好評を博し、それから2年間、PSVのホーム試合には必ず彼らの姿があった。

「ある時、アヤックスとの試合で、アヤックスのコーチだったヨハン・クライフが私たちの音楽を気に入ってくれ、アヤックスの応援にも役買ってほしいという要請が来たんです。でもアヤックスとPSVはライバル同士だったから、当初は双方のサポーターとも困惑しました。でも、それをきっかけにサッカー協会に働きか

け、代表の試合で活動するようになったんです。最初の仕事がユーロ88でした。オランダがロシアと対戦したハンブルグとミュンヘンで演奏したのが初めてでした。ほかのどの国もブラスバンドの応援などなかったですから、私たちはパイオニアだったと言っていましょう。ブラスバンドの応援というスタイルが、オランダ流に合ったんだと思います。でもクライフが気に入ってくれなかったら、代表の応援にブラスバンドというアイデアは出てこなかったかもしれないですね。」

Football LIFE